

アフリカ3カ国での活動

AFICAT（アフィカット）曰く、アフリカ農業イノベーションセンター（JICA）の調査事業をJICA（国際協力機構）から受託し実施している株式会社はつマネジメント・コンサルティングはこのほど、AFICATニュースレターの日本第8号を発行した。

今回掲載しているのは、昨年12月から今年1月に実施したアフリカのタンザニア、ガーナ、コートジボワール3カ国の活動など。また、JICA筑波センターが実施した農業機械の在外補完研修についても記載している。

タンザニアでは、松山（株）の作業機がキリマンジャロ農業研修センターに到着し、AFICATの日本人専門家チームが実証やデモに向けた準備を進めていることを紹介。

また、JICAの筑波センターが実施した課題別研修「アフリカ地域農業機械化促進」に、ガーナ、ルワンダ、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ、ザンビアなど14カ国からの参加があり、前半はオンラインで行われ、後半はタンザニアで在外補完研修が実施されたことが記されている。

そして、「AFICATでは、これからもJICA

CA筑波センターによる研修事業や農業共創ハブとの連携に向けて、引き続き検討・調整していく予定」だと述べられている。

タンザニアではこのほか、ヤンマーのコンバイン研修、クボタのウェブメディア・クボタプレスでアフリカの取り組みが紹介されていることを記載。

ガーナでは、農民のイベントの視察、コートジボワールではクボタとヤンマーが実施した現地代理店向け研修を取材。また、コートジボワールで実施されたケツト科学研究所のセミナーや国産米振興プロジェクトフェーズ2によるヤンマー製の脱穀機研修のもようについて紹介している。